

常民文化ミュージアム

開館：2023年3月13日（月）リニューアルオープン

会場：横浜キャンパス3号館3-103 ミュージアムコモンズ

[所員] 昆 政明 木下直之 角南聡一郎 道用大介 前田禎彦 安室 知
山本志乃

研究成果の紹介と大学教育、社会貢献の場に

昆 政明

神奈川大学日本常民文化研究所は、研究所全体を博物館と位置づけ、2023年3月10日付で博物館法第29条の規定に基づく「博物館に相当する施設」として指定された。博物館機能の中でも重要な「展示機能」については、従来使用していたスペースが、図書館改修工事に当たって一時的に閲覧室に転用されていた。工事終了に伴い、展示スペースが復元されたが、それにあわせて「展示スペース」の見直しが行われ、大学史展示室と日本常民文化研究所展示室に挟まれる位置に企画展示室が置かれることとなった。

日本常民文化研究所は、渋沢敬三により1921年に創設したアチックミュージアムソサエティから日本常民文化研究所に改称、1982年に神奈川大学に招致され付置研究所となった。アチック・ミュージアムの名前から分かるように、当初より博物館機能が重要な要素として位置づけられており、創立100周年を迎えた2021年に策定された将来構想に博物館機能の充実が盛り込まれた。



写真1 展示室の面積が狭いため、全体を黒い壁面として奥行きを出し、同系色のスチールメッシュパネルを設置して、パネルや資料を自由に配置できるようにした



写真2 展示作業中の「常民文化へのアプローチ」コーナー（左）と「海のくらしと知恵」コーナー



写真3 同「布とくらし」コーナー（左）と「生活の記録」コーナー



写真4 中央小企画コーナーの展示作業

このほど開館した「常民文化ミュージアム」は博物館相当施設「神奈川大学日本常民文化研究所」の常設展示室となるものである。当研究所はこれまでも、研究成果や収集資料を各種報告書出版物や、講座講演会、企画展などで発信してきたが、本展示室は学内だけでなく広く社会貢献の役割も担っていきたいと考えている。また、常設展示とは言いながらも、研究成果を適時公開できるような展示手法を用い、テーマによっては接続する企画展示室も活用し、大学における研究博物館として活動していく予定である。

開館時の展示内容は、壁面時計回りの順路で、研究所を紹介する「常民文化へのアプローチ」と、現在進行中の研究事業の一部を紹介する「海のくらしと知恵」「布とくらし」「生活の記録」4壁面、および外壁面に研究所100年の歩みが年表パネルとして構成されている。